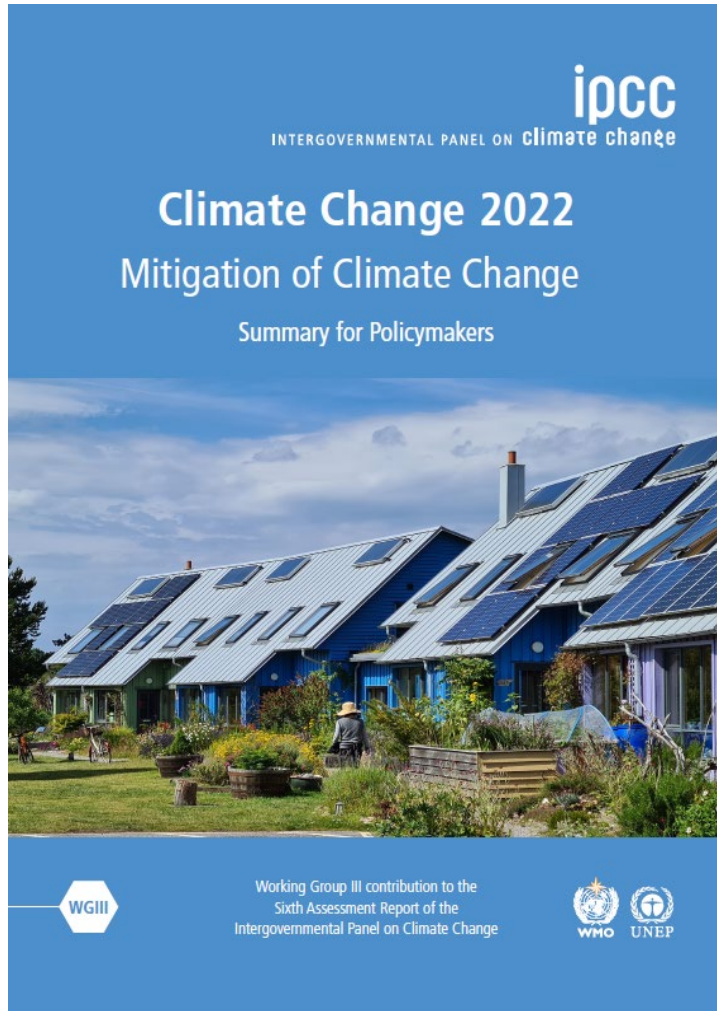


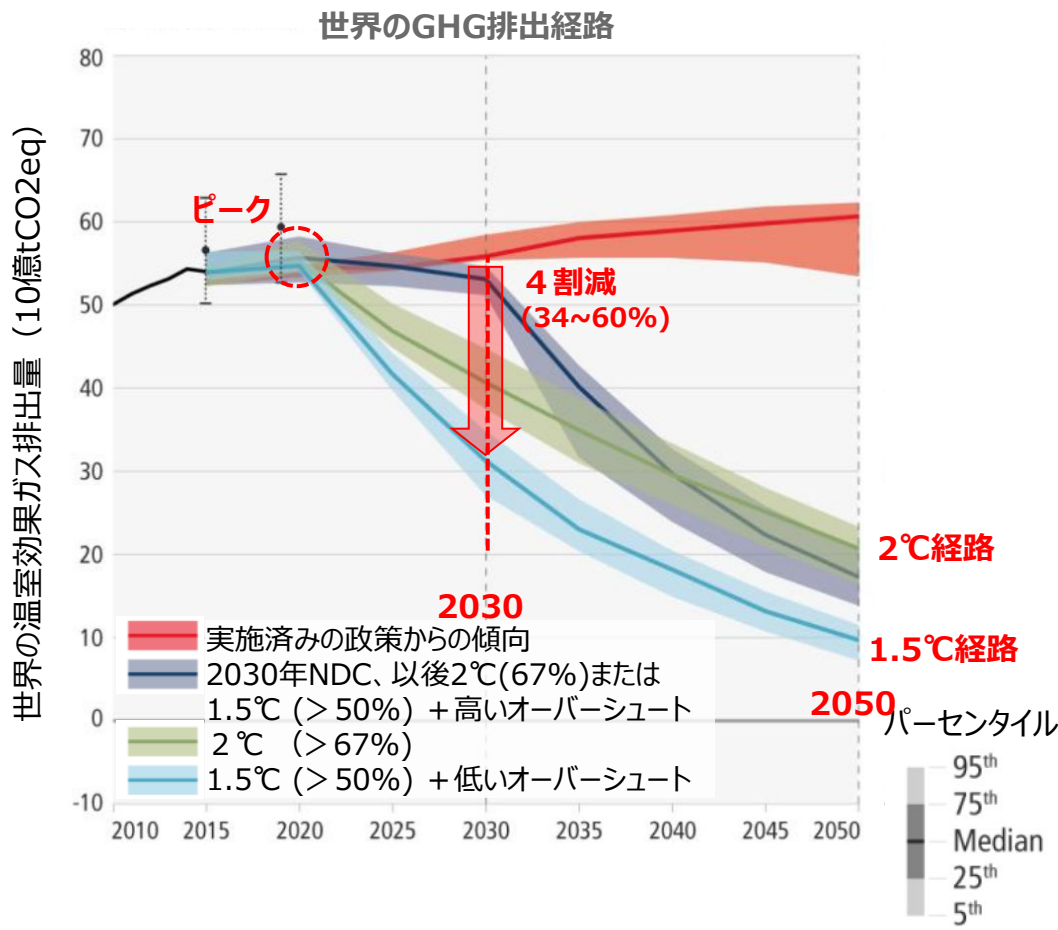
IPCC WGIII AR6 SPMの概要



第3章 代表執筆者
長谷川知子(立命館大学)

【1.5°C 排出経路】1.5°C目標の達成には現行のNDCでは極めて不十分。

将来の気温上昇水準に応じた世界の排出経路



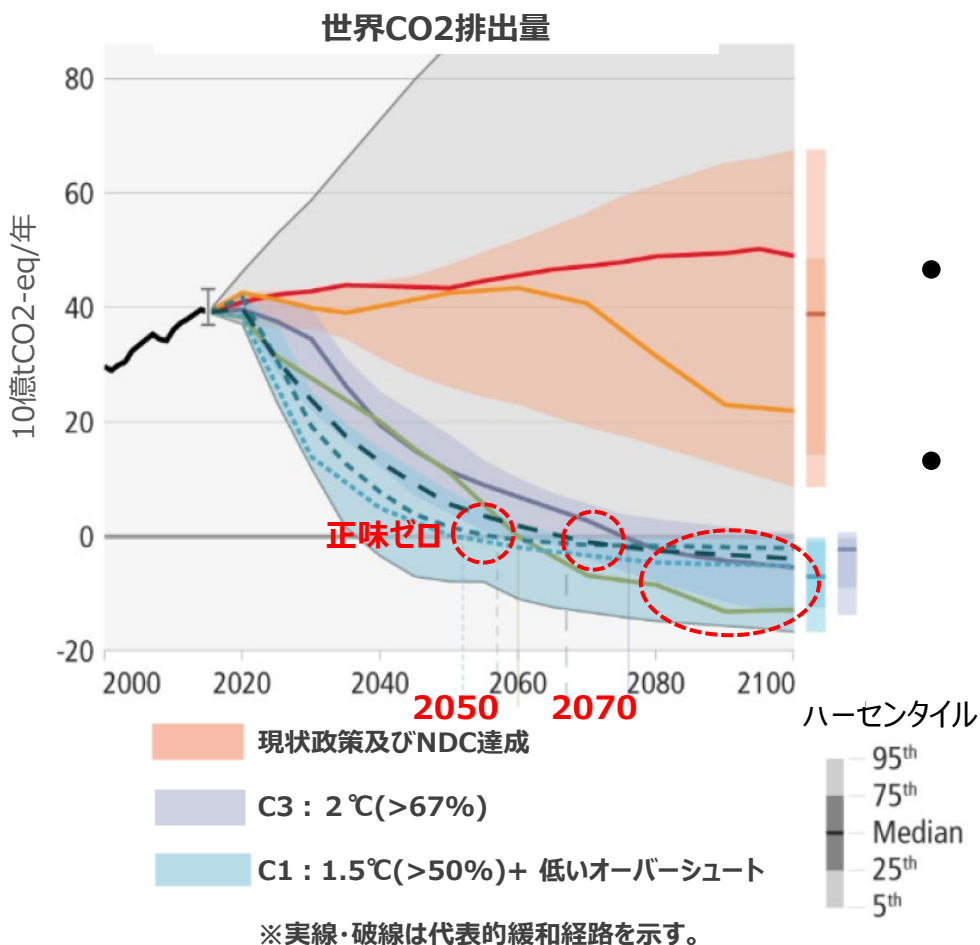
- 1.5°C達成での世界GHG排出量
 - 2025年までにピークアウト
 - 2030年までに4割減
- 現行のNDC
 - 1.5°C達成は困難
 - 2°C達成には2030年以降に急速な削減が必要になる

(出所) IPCC AR6 WG3 SPM Figure SPM.4 (赤文字・線 追記)

【1.5°C 排出経路】2050年代でネットゼロ排出に達成

将来の気温上昇水準に応じた世界の排出経路

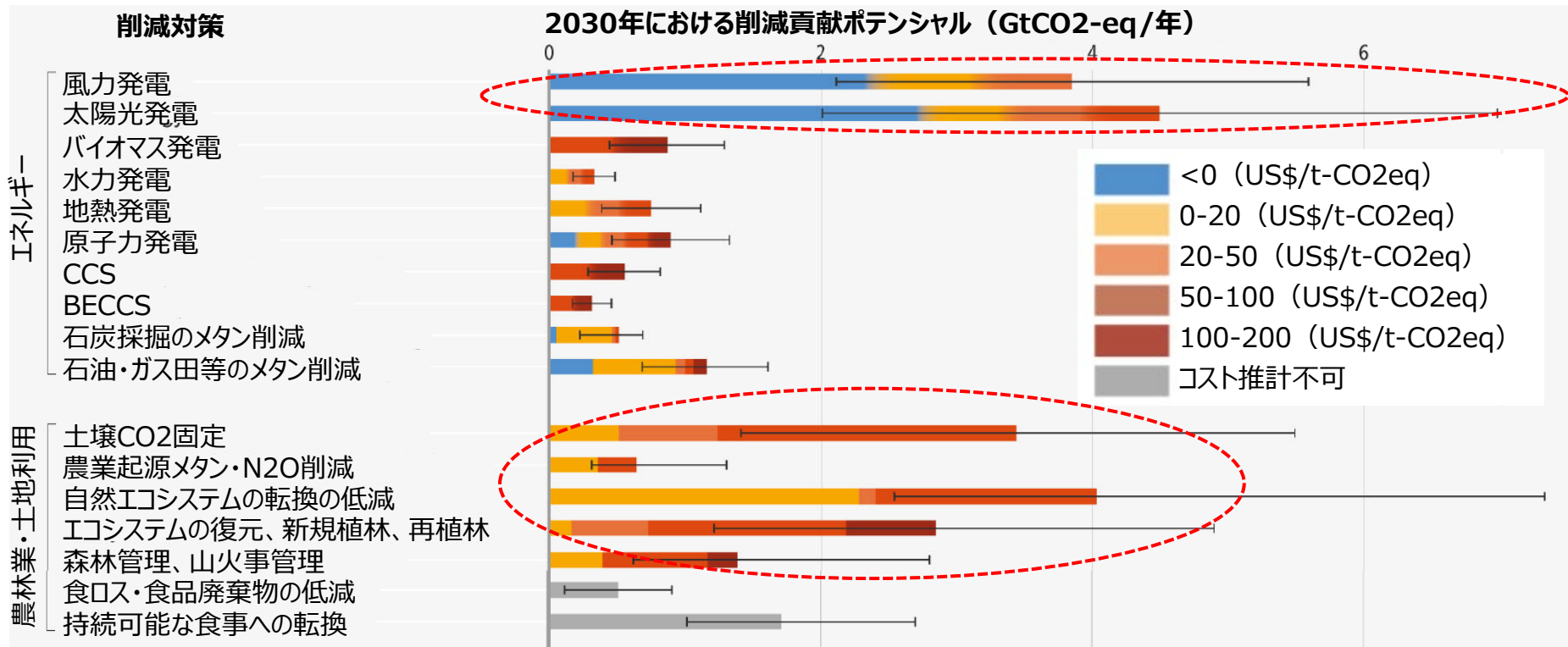
- CO2 ネットゼロ排出
 - 1.5°C 目標達成: 2050年代
 - 2°C 目標達成: 2070年代
- 今世紀後半での大幅な負のCO2排出
- 日本の2050年ネットゼロの目標は1.5°C 目標相当



100米ドル/tCO₂までの対策で2030年までに2019年比半減が可能 20米ドル/tCO₂までの対策がその半分以上を占める

- 再エネ(風力・太陽光)が低コストなため安価で大幅な削減が見込まれる
 - 0米ドル/tCO₂未満でその半分以上の削減
- 農業・土地利用由来の排出削減が大きい

2030年における排出削減対策と削減費用別の削減ポテンシャル (1/2)



(出所) IPCC AR6 WG3 SPM Figure SPM.7